

一念多念證文解説

一念多念證文の親戀眞蹟としては唯一本現存するのみ。それは大谷派本願寺に藏する所の「一念多念文意」一巻これなり。卷尾に「康元二歳丁巳二月十七日愚禿親戀八十五歳書之」の識語あるを以て、後世に於ける流布本（これには正嘉元年八月六日の奥書あり）の原本なること明らかなり。

今口繪に出だすところの斷簡一葉は、最近、大谷派本願寺寶庫より發見さるゝ所にして裏面に左の識語あり。

「尾州犬山ノ遠藤宗善御心指に上申候

月五日 元和十年三月十五日」

以て本書の傳來を知るを得べし。世に親戀の眞蹟として傳ふるもの頗る多くして、その數殆ど五十有餘種にも上るべけれど、眞にその眞蹟として斷定し得べきものは僅にその過半数のみ。

本書の如きも亦嚴密なる史眼を以てすれば、或はそが眞蹟と決する能はざるも、今はたゞ眞宗聖教の書史學的研究資料として敢へて是を掲げたるのみ。原寸竪一尺一寸横五寸九分。（目下無倫）

圖版Web非公開

(藏寺願本東) 葉一 簡斷文證多一蹟演御人聖慈親